

2021年度 事業計画書



一般社団法人 全日本囲碁連合

1 事業の目的

当法人は、国際的に日本の囲碁界を代表する団体として、囲碁競技の進化と国際的發展を推進し、囲碁を通じて国際的友好親善に貢献するとともに、日本を代表する選手等の育成強化を図り、もって世界の囲碁の振興に寄与することを目的とする。具体的には次の事業を実施する。

- (1) 公益財団法人日本オリンピック委員会への登録、及び事業協力
- (2) 代表選手及び役員の選定及び派遣
- (3) 選手の選考基準の策定
- (4) 参加国による競技ルールの取決め、調整及び国際会議出席者の推選
- (5) 選手の育成、指導、強化
- (6) アンチドーピングへの教育と啓発
- (7) その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

2 2021年度事業計画

- 2.1 公益財団法人日本オリンピック委員会への登録、及び事業協力
 - ・日本オリンピック委員会（JOC）への加盟申請を進める。
 - ・日本オリンピック委員会（JOC）への加盟承認後、第19回アジア競技大会への選手派遣に向けた申請を進める。
 - ・スポーツ庁が策定している中央競技団体向けのスポーツ団体ガバナンスコードの内容を精査し、対応状況の検証ならびに未対応事項に関して対応計画を検討し、決定する。計画に従い、未対応事項への対応を順次進めていく。
- 2.2 代表選手及び役員の選定及び派遣
 - ・国際スポーツ連盟機構（GAISF）や国際マインドスポーツ連盟（IMSA）が主催する国際大会に派遣する選手並びに役員を決定する。
 - ・2022年9月10日～25日に中国杭州にて開催予定の第19回アジア競技大会に向けて、選手選考規程ならびに関連規定を整備して、選手並びに役員を決定する。
- 2.3 選手の選考基準の策定
 - ・2022年9月10日～25日に中国杭州にて開催予定の第19回アジア競技大会に向けて、選手選考規程ならびに関連規定を速やかに策定し整備する。
- 2.4 参加国による競技ルールの取決め、調整及び国際会議出席者の推選
 - ・国際スポーツ連盟機構（GAISF）や国際マインドスポーツ連盟（IMSA）が主催する各競技大会において、国際囲碁連盟（IGF）が決定する囲碁・ペア碁の競技ルールに関し、必要に応じて提議、調整を行う。
- 2.5 アンチドーピングへの教育と啓発
 - ・国際囲碁連盟（IGF）と連携し、アンチドーピングに関する知識を深める。
 - ・日本アンチ・ドーピング機構（JADA）への加盟に向けて規程整備等の必要な手続きを進める。
- 2.6 その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業
 - ・日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会が主催する大会・イベントに協力する。
 - ・HP等を通じて当法人の活動情報を発信する。
 - ・囲碁・ペア碁における各団体の事業や国内外の課題に関し、当法人を構成する各団体間の意見交換を行う定期的な会合を開催する。

3 協会運営に関わる会議

理事会・社員総会

(1) 2021年6月 2020年度決算

(2) 2022年3月 2022年度事業計画審議

※必要に応じて中間報告のための会議開催

[添付資料] 2021年度収支予算書